

伊勢湾台風 60 年と「くつ塚」

伊勢湾台風から 60 年ということで、わが人生の軌跡をたどる気持ちである。当時、名古屋市立千種小学校の生徒だった私も、伊勢湾台風抜きに人生を語れない。巨大台風の恐怖を身をもって体験したが、わが家は直接には大きな被害を受けなかった。親戚が被害を受け、同じ年代の多くの子どもらが犠牲になったのが、心に重く残った。伊勢湾台風が襲来した 9 月 26 日近くになると、いつも落ち着かなくなる。

写真上は『伊勢湾台風災害誌』名古屋市、1961 年による。名古屋市立大滝子キャンパス近くにあった古本屋で買った。本には 3500 円と書かれている。退職と引っ越しで多くの本を寄贈、処分したが、この本は大事に取っておいた。443 頁に及ぶ『災害誌』冒頭に 7 枚の写真が掲載され、その最初の写真である。いたましい犠牲者の遺品を祭ってできた「くつ塚」、そこに建てられた慰霊の碑。



いたましい犠牲者の遺品を祭ってできた「くつ塚」。(昭和三十四年)



くつ塚に建てられた慰霊の碑

3 年前、地図を頼りに南区の「くつ塚」に近い南光中学に向かった。60 年前の夜、多くの人が南光中学をめざ



したが、途中で荒波にのまれて亡くなったという。中学から

すこし歩いて浜田南公園に着いた。ここに「くつ塚」があった。「慰霊之碑」の裏側に、碑文と殉難者氏名が書かれている。写真から何とか読みとった碑文を紹介する。



碑文

激しい風と雨、胸までつかる水、その中で進退きわまった人々の悲しく叫びつづける声が、闇の空にむなしくかき消されてゆくばかりでした。碑の正面に見える路上で 500 を超える人の群れが、必死に励まし頑張り、祈りつづけたのですが、無情の高潮は遂に 280 に近い人命を一時に呑み込んでしまったのです。水が退いてこの付近一帯からひろい上げられた遺品の雨靴が、道路わきに山と積まれ又人々の新しい涙を誘うのでした。そこはいつのまにか、“くつ塚”と呼ばれ道行く人々までが花と線香と静かな祈りを捧げるところとなりました。その深い悲しみの場所に、市当局と全宝学区民の総意と努力により、更に又学区外の多くの人々の協力も得てこの碑が建立されました。今この碑の中に全学区の殉難者 307 柱の遺骨を安置してひたすら諸霊の冥福を祈ります。

昭和 35 年 4 月 26 日

(2019 年 9 月 27 日)